

第 3 章

将来像と目標

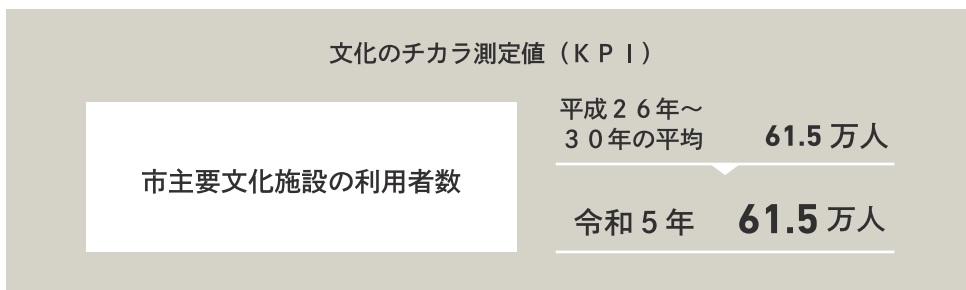
ここでは、これまでの分析を踏まえた本市の文化振興の基本的な方向性と、目指すべき将来像と目標を明らかにします。

- ① 目指すべき将来像
- ② 基本目標
- ③ 体系図と施策の考え方
- ④ 施策の方向性と取組イメージ

1 目指すべき将来像

「文化のチカラが輝くSASEBO」

これまで先人たちが残してくれた文化、これから私たちが作りあげていく文化、双方のチカラをより市民全体で共有していくことで、このまちで生きる私たちの活力や生きがいを育み、地域外の人々をも幸せにするまちを目指します。

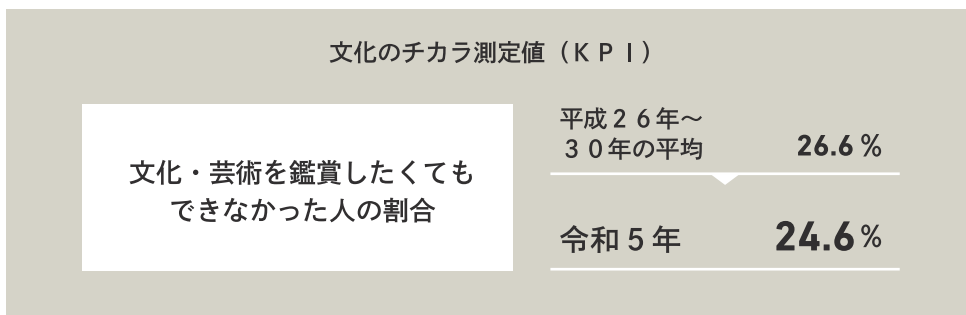


※人口減少下において、利用者数を維持するという考え方

2 基本目標

だれもが多様な文化を楽しめるSASEBOを目指します。

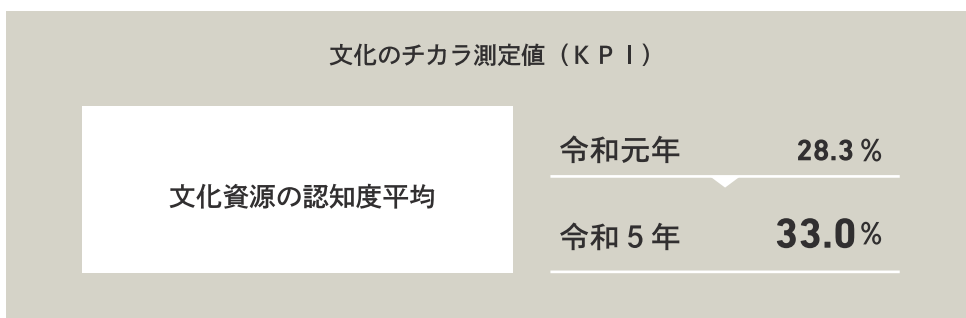
生まれた環境や年齢、置かれた状況に関わらず、多様な文化をより気軽に親しめる環境を整えていきます。



※当該市民のうち約5千人の鑑賞環境を整えるという考え方

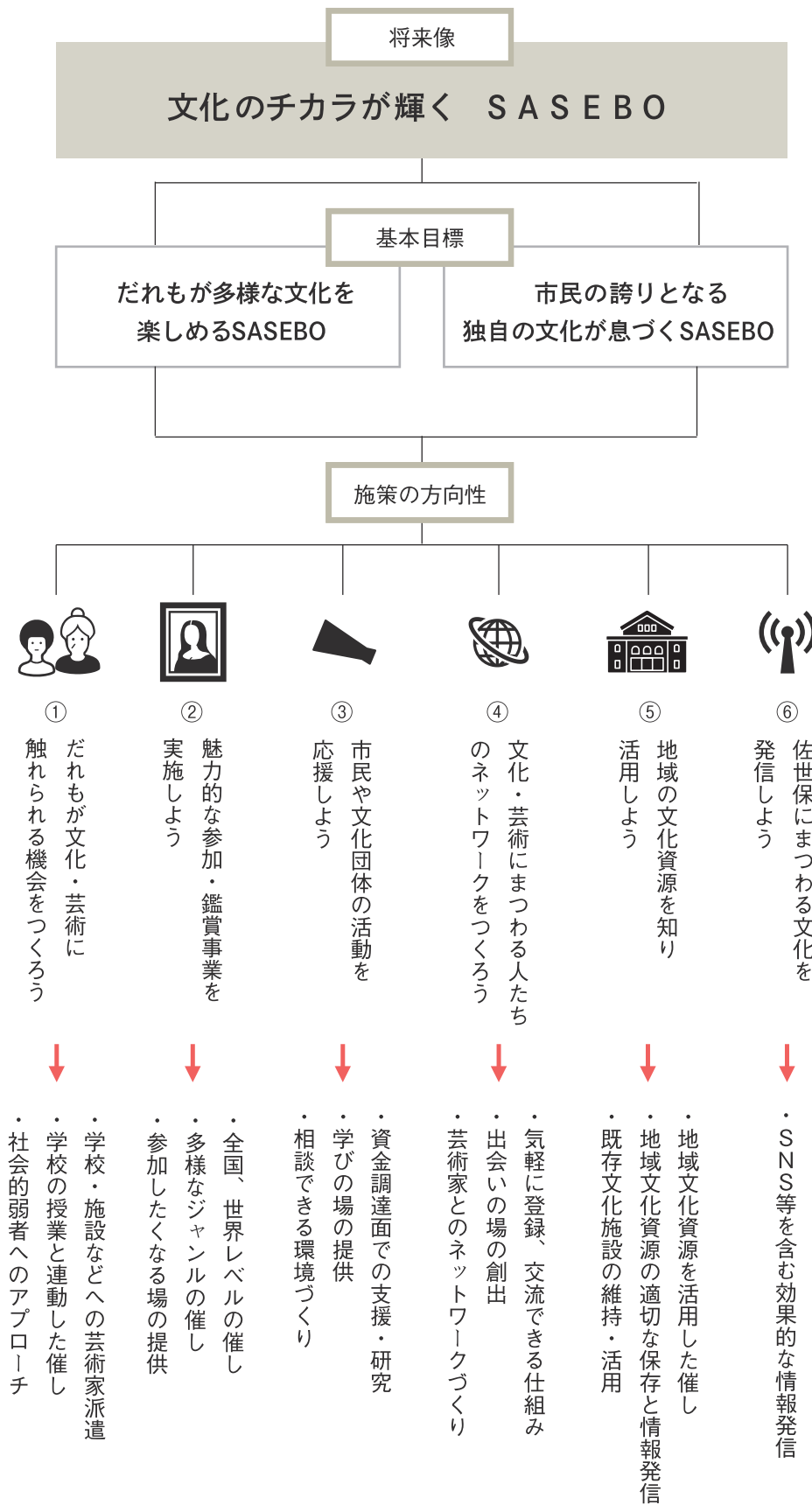
市民の誇りとなる独自の文化が息づくSASEBOを目指します。

佐世保ならではの文化を市民で共有し、様々な佐世保らしい取組による活動や交流が生まれ、生きがいとなっていくようなチャレンジや下支えを行います。



※平均認知度を4年で5%上昇させるという考え方

3 体系図と施策の考え方



4 施策の方向性と取組イメージ

方向性①



だれもが文化・芸術に触れられる機会をつくろう

子どもから高齢者まで、障がいの有無や経済状況、住む地域に関わらず、文化・芸術に触れたい人が触れられるような環境づくりを進めます。

また、文化施設に来ることが難しい人のためのアウトリーチプログラムや、子どもの主たる生活基盤である学校との連携をより深めていきます。

イメージ

- 子どものための音楽鑑賞体験教室の広域化
- 芸術家派遣のジャンルや対象施設の拡大

方向性②



魅力的な参加・鑑賞事業を実施しよう

文化・芸術の鑑賞や活動をしたいと考えていながら、実際に施設に足を運び、活動できていない人たちも多く存在します。文化施設における鑑賞、体験の機会の提供においては、全体を通して、一部の人のためのプログラムに偏っていないか配慮しながら、質の高い催しと、多くの人に足を運んでもらえるきっかけとなるような間口の広い催しのバランスを取った事業展開を行います。

イメージ

- 地方ではなかなか見る機会のない質の高い公演の実施
- 知名度の高い演者の公演や、参加しやすい多様なイベントの実施

方向性③



市民や文化団体の活動を応援しよう

文化活動をはじめ、続ける上で必要な資金やノウハウについて、より適切な支援ができるよう既存事業の見直しに取り組みます。高齢化による文化団体の活動継続の困難化も表面化している中、気軽に学び、相談できる窓口や仕組みづくりについても検討を行います。

イメージ

- 既存の補助制度の見直し
- 文化活動に関する相談などがしやすい仕組みについて検討